

臨時監査「教育」報告書

監事計画に挙げた 3 つの重点項目について、項目ごとに対象部門を選定し、書面調査と面談によって監査を実施した。それぞれの監査の概要と監事意見は以下のとおりである。

【テーマ 1】京都大学特色入試への取組

I 主な監査内容

平成 28 年度入学者選抜から実施予定である「京都大学特色入試」に向けての準備状況や実施体制の取組状況等に関する監査

II 監査の方法

1 監査の方法

既存資料等により書面調査を行うとともに、予め通知した質問項目にしたがって調査対象部局長（研究科長）、担当教員、事務担当者に面談することにより監査を実施した。

2 監査の実施先

(1) 総合人間学部	9 / 11 (金)
(2) 薬学部	9 / 24 (木)
(3) 法学部	10 / 8 (木)
(4) 教育学部	10 / 14 (水)
(5) 農学部	10 / 15 (水)
(6) 文学部	10 / 16 (金)

III 監査結果

【部局の取組 — 総合人間学部】

1 総合人間学部が「特色入試」に求める人間像

総合人間学部は、異質な学問分野の接触と相互作用を基盤とした新たな「人間の学」の創出を目指している。積み上げられてきた既成の学問の成果を生かしながら問題を発見し追求すること、問題の解決に向けて学問間の連携を図り、新たな体系を創出することが目的である。こうした意味での「総合」、「文理融合」の意義を理解し、これを積極的に進めようとする学生諸君を求めている。

2 「特色入試」により求める人物像が選抜できる根拠

高等学校での多方面にわたる学習成果が大学での学習意欲に結びつくものと考え、第一次選考において、調査書に加え、高等学校等で作成される「学業活動報告書」および受験生本人が作成する「学びの設計書」による多面的評価を行う。

第 1 次選考合格者を対象に、第 2 次選考を行い、本学部が追求する「文理融合」・「総合」、つまり、異質な学問分野の接触と相互作用から、新たな「人間の学」を創出するという目標に叶う人材を選抜すべく、能力測定考査を実施する。「文系総合問題」において長文の読解力と文章力を測り、「理系総合問題」において数理的思考力・論理的思考力を測定する。これらの結果を総合的に評価することで、本学部の求める人材の選

抜が可能となる。なお、一般入試で選抜する学生と同等もしくはそれ以上の学力を求めて、合格者には大学入試センターの成績 800 点中、85%以上というハードルを設定している。

3 選抜日程

- (1) 出願書類受理期間：平成 27 年 11 月 2 日（月）～11 月 6 日（月）午後 5 時（必着）まで
- (2) 第 1 次選考結果発表日：平成 27 年 11 月 30 日（月）
- (3) 第 2 次選考実施日：平成 27 年 12 月 23 日（水）
- (4) 最終合格発表：平成 28 年 2 月 10 日（水）
- (5) 募集人員：5 名

【部局の取組 — 薬学部薬学科】

1 薬学部が「特色入試」に求める人間像

薬学部では 3 つの求める人物像を提示している。

- (1) 高校での学習と幅広い課外活動を通して、十分な基礎学力と薬学（創薬）への強い関心を持ち、大学入学後あるいは卒業後の自分の進路や将来像についてしっかりとした考えを持っている人
- (2) 大学入学後も幅広い分野に興味を持ち続け、自学自習を実行し、自らの自由な発想を活かしてより高度な学びへと進むことができる主体的行動力を有する人
- (3) 英語が得意で理科がすき、将来は薬学研究者として指導的な立場で国際的に活躍し、世界に貢献できる人

2 「特色入試」により、求める人物像が選抜できる根拠

- (1) 高校での「学業活動報告書」と「学びの設計書」に「面接試験」を組み合わせることにより、高校時代に薬学に関する知識を自学自習でどれだけ勉強しているか、また、大学入学後の講義・研究内容など大学での学びについて真剣かつ自主的に事前調査をしているかなどを審査し、薬学の知識と興味、意欲、主体性などを評価できる。
- (2) 論文試験の問題は、理科の総合問題として、過去問になく高校や塾では教えない初めて出会う問題を出題する。初めて出会う課題に対し、自分ひとりで粘り強く、多面的に考え抜く能力を問うことで、科学（理科）に対するセンス（自由な発想力と課題探求力）を見極めることができる。
- (3) 英語によるプレゼン能力は、現在、米国の大学で外国人学生の入学資格に広く活用され、実績のある TOEFL-iBT（スコア 75 点以上を受験資格としている）を利用することにより、英語によるコミュニケーション力を評価できる。
- (4) 特色入試の第 2 次選考合格者に大学入試センター試験（学部で指定した教科・科目の総得点 740 点以上）を課すことで、高校でのある一定以上の幅広い学習と基礎学力を担保することができる。

3 選考日程

- (1) 出願書類受理期間：平成 27 年 11 月 2 日（月）～11 月 6 日（金）午後 5 時（必着）まで

- (2) 第1次選考結果発表日：平成27年11月30日(月)
- (3) 第2次選考実施日：平成27年12月23日(水)
- (4) 第2次選考合格発表日：平成28年1月13日(水)
- (5) 最終合格発表：平成28年2月10日(水)
- (6) 募集人員：3名

【部局の取組 ー 法学部】

1 法学部が「特色入試」に求める人間像

法学部では、世界・国家・社会にかかる様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた人材を求めている。

2 「特色入試」により、求める人物像が選抜できる根拠

法学・政治学は、世界・国家・社会にかかる様々な問題に直面している。これらの問題に取り組むには、多方面にわたる幅広い基礎的な学力が必要である。また、それらを解明するには論理的思考力が必要であることは言うまでもないが、それを兼ね備えていることが不可欠である。

「特色入試」では、多方面の基礎的な学力について一定水準に達しているか否かを第1次選考で評価し、一定水準に達したものに論文試験を課すことにしている。多方面の基礎学力が一定水準に達しているか否かは、センター試験を中心に判断するとともに、高校での学習成果も参考にする。多方面の基礎学力を判断するのにセンター試験が一定の信頼できる指標となってきたことは明らかであるが、特定期日の試験の結果を見ることから、たまたま体調が悪かったりしたため、本来の成果を出せない場合もあり得る。高校での成果を見ることにより、本来の学力を発揮できなかったと判断されるものを一定水準に達しているとみなし、第2次選考の機会を与える。

第2次選考では、日本語と英語の文章を題材に小論文を書かせることにより、読解力、論理的思考力、表現力を見る。適切な素材と設問によって、受験生が自らの知識を基盤に問題の解明を行う思考力・判断力・表現力をどれだけ有しているかを評価することができるだけでなく、様々な問題への知的関心の強さも評価できることは、法学部・法学研究科での様々な試験実施の経験から明らかである。これとセンター試験の結果を併せることで、総合的な評価を行う。

3 選考日程

- (1) 出願書類受理期間：平成28年1月25日(月)～2月3日(水)午後5時(必着)まで
- (2) 第1次選考結果発表日：平成28年2月28日(日)
- (3) 第2次選考実施日：平成28年3月12日(土)
- (4) 最終合格発表：平成28年3月23日(水)
- (5) 募集人員：20名

【部局の取組 ー 教育学部】

1 教育学部が「特色入試」に求める人間像

- (1) 高校での教科の学習および総合的な学習などにおいて学習を深め、テーマを設定して探求活動を行い、卓越した学力を身につけ成果を挙げた者、あるいは学校

- 内外の活動で豊かな経験を積み、創造的な熟達を通して深い洞察を得ている者
- (2) 人間と社会、教育や心理について関心を持ち、論理的・批判的に思考し、問題を解決する能力とコミュニケーション能力を持つ者
 - (3) 将来、教育や心理にかかわる専門的識見を発揮して、社会に貢献する志をもつ者

2 「特色入試」により、求める人物像が選抜できる根拠

従来の入試では、教科ごとの学力、特に知識とそれに基づく思考力に依る選抜であったが、「特色入試」では、従来の入試では測れなかった能力について、下記の方法で多面的に評価を行い選抜を行う。

- (1) 探求活動などに基づく学力や成果、学校内外での多様な経験に基づく熟達や成果は、志願者が提出した「学びの報告書」と「口頭試問」で評価する。
- (2) 論理的・批判的に思考し、問題を解決する能力、コミュニケーション能力は、2次試験の「課題」および「口頭試問」で評価する。
- (3) 将来の志は、志願者が提出した「学びの設計書」と「口頭試問」で評価する。
また、評価においては、知識やスキルを総合的に活用/応用する力をみる「パフォーマンス評価」を用いて、学修の成果物やそれに関わる活動を評価する。

3 選考日程

- (1) 出願書類受理期間：平成27年10月5日(月)～10月9日(金)午後5時(必着)まで
- (2) 第1次選考結果発表日：平成27年11月6日(金)
- (3) 第2次選考実施日：平成27年11月28日(土)、29日(日)
- (4) 第2次選考合格発表日：平成27年12月15日(火)
- (5) 最終合格発表：平成28年2月10日(水)
- (6) 募集人員：6名

【部局の取組 — 農学部】

1 農学部が「特色入試」に求める人間像

農学部が養成しようとする人材は、「農学およびそれに関連する学識と高い倫理性を身につけ、かつ以下のような能力を備えた社会人」である。

- (1) 人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想できる。
- (2) 農林水産業および食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与できる。
- (3) 生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学研究が理解できる。

2 「特色入試」により、求める人物像が選抜できる根拠

農学に関する幅広い知識に裏付けられた人材を養成するにあたり、従来から一般入試で評価されてきた「学力」だけでは評価しづらい高校での学習・課外活動・日常活動などを評価軸に加える。つまり、高校での志望者の学習・課外活動・日常活動を記した「学業活動報告書」と本人記載の「学びの設計書」を精査することにより、継続的な活動状況が推測できる。

3 選考日程

- (1) 出願書類受理期間：平成 27 年 11 月 2 日（月）～11 月 6 日（金）午後 5 時（必着）まで
- (2) 第 1 次選考結果発表日：平成 28 年 2 月 3 日（水）
- (3) 第 2 次選考実施日：平成 28 年 2 月 5 日（金）
- (4) 最終合格発表：平成 28 年 2 月 10 日（水）
- (5) 募集人員：3 名

【部局の取組 － 文学部】

1 文学部が「特色入試」に求める人間像

基礎学力を十分に備え、これからの文学部での勉学についてプラント展望を持ち、意欲を持って広い意味での勉学に励む人を求める。

2 「特色入試」により、求める人物像が選抜できる根拠

- (1) センター試験において 760 点以上という、従来の入試合格者においても比較的高得点を要求する。
さらに、論文試験を課し、従来の入試科目における「読ませる日本語と英語の文章」とは文章に内容や傾向、難度などの点で異なる問題を通して、従来基礎学力とは異なった読解力を問うことにより、文学部の学生に必要な基礎学力を問う。
- (2) 従来入試では課さない長文の作文を課すことによって、これまでは問えなかった基礎表現力を見ることができる。
- (3) 将来のプランや展望、意欲という点については、与えられた文章を読み、理解した上で、その文章の持っている主張と、自らの「学びの設計書」の内容とを関連づけて述べさせる問題を課す。これにより「学びの設計書」に書かれている内容が、いかに学生自身の自覚と意思に切実に結びついているかを問うとともに、他者の意見と交流しつつ、自らの意見を述べるができるかを問う。
以上のことを総合的に評価することにより「求める人物像」を選抜できる。

3 選考日程

- (1) 出願書類受理期間：平成 27 年 11 月 2 日（月）～11 月 6 日（金）午後 5 時（必着）まで
- (2) 第 1 次選考結果発表日：平成 28 年 2 月 3 日（水）
- (3) 第 2 次選考実施日：平成 28 年 2 月 5 日（金）
- (4) 最終合格発表：平成 28 年 2 月 10 日（水）
- (5) 募集人員：10 名

監事意見

■ 京都大学特色入試への取組と課題

平成 28 年度に初めて導入された「京都大学特色入試」については、平成 26 年度に設置した「特色入試実施委員会」を中心に、各部局連携しながら平成 27 年度に募集要項を作成し、高等学校や社会への公表および広報を実施して、平成 27 年 10 月より入学希望者の募集を開始した。表に示したように募集人員・試験実施方式は各部局で異なっており、募集時期や試験実施日も統一されていない。

少数の募集人員に対する応募者の数は以下に示したとおりである。

募集人員・試験実施方法

学部・学科・専攻名		募集人員	試験実施方法	
総合人間学部		5名	学力型AO	
文学部		10名	学力型AO	
教育学部		6名	学力型AO	
法学部		20名	後期日程	
経済学部		25名	学力型AO	
理学部		5名	学力型AO	
医学部	医学科	5名	推薦	
	人間健康科学科	看護学専攻	10名	学力型AO
		理学療法学専攻	3名	
		作業療法学専攻	3名	
薬学部	薬科学科	3名	学力型AO	
工学部	地球工学科	3名	推薦	
	電気電子工学科	5名		
	情報学科	2名		
	工業化学科	若干名		
農学部	食料・環境経済学科	3名	学力型AO	

応募人員

学部・学科・専攻名		募集人員	応募人員	倍率	
総合人間学部		5名	29名	5.8	
文学部		10名	40名	4.0	
教育学部		6名	25名	4.2	
法学部		20名	※	※	
経済学部		25名	77名	3.1	
理学部		5名	59名	11.8	
医学部	医学科	5名	5名	1.0	
	人間健康科学科	看護学専攻	10名	13名	1.3
		理学療法学専攻	3名	7名	2.3
		作業療法学専攻	3名	2名	0.7
薬学部	薬科学科	3名	2名	0.7	
工学部	地球工学科	3名	0名	0.0	
	電気電子工学科	5名	12名	2.4	
	情報学科	2名	1名	0.5	
	工業化学科	若干名	0名	—	
農学部	食料・環境経済学科	3名	20名	6.7	

※ 現時点では未定

今回は第1回目の「特色入試」であることと、募集人員や日程などの全学的な統一はなされていないものの、入試準備および実施は順調に行われた。高等学校や受験生の反応および課題等については、今後の調査に基づいて来年度以降の「特色入試」の改善に生かしていくことが必要である。また、昨年度と今年度の入試改善に関する臨時監査を通して感じたことは、「特色入試」の募集人員、試験日程などは各部局ごとに異なり、全学的な統一性に欠ける部分が認められ、高等学校や受験生側に多少の混乱と煩雑さをもたらしたのではないかと危惧されたことである。これらの課題の解決や改善に向けて、今後、全学的な観点から検討を加えるとともに、「特色入試」に関する専門部などを常置して、入試の企画・改善業務を強化・充実する必要があると考えられる。